

タバコも歯周病の原因

前号では歯周病が全身に与える影響について主な病気（肺炎、心臓病、低体重児早産等）を例に掲載しました。今回は、歯周病の進行と、さらに進行を促進させる危険因子について考えてみましょう。

歯周病の進行

歯周病には、歯肉に炎症が起こる歯肉炎と、炎症が、歯根膜や歯を支える歯槽骨まで及ぶ歯周炎があります。歯周病は、その進行の度合いで、1度(P1)から4度(P4)の四段階で分類することができます。

P1(軽度) = 歯垢や歯石がたまり歯肉が赤くはれます。

歯肉から出血することもあります。

P2(中等度) = 歯周ポケットが深くなり、歯肉縁下に歯石がたまります。

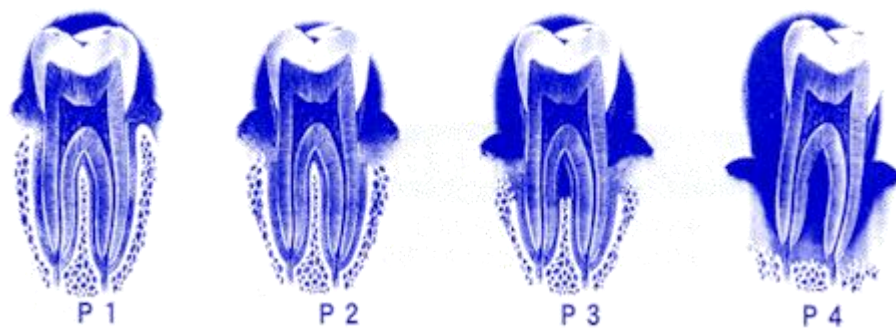
歯を支える骨(歯槽骨)の溶解が始まり、歯肉溝から膿(うみ)が出てくるようになります。

P3(重度) = 歯周ポケットは更に深くなり、歯がぐらつき始めます。

噛み合わせたときに痛みを感じるようになります。

P4(末期) = 歯根が完全に露出してしまい、歯のぐらつきが増します。

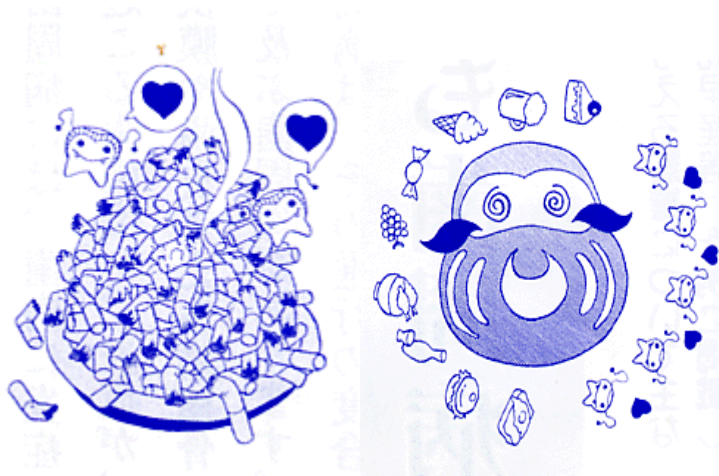
歯が自然に抜け落ちてしまうことがあります。



喫煙

喫煙は喫煙した煙草の総蓄積本数が多いほど歯周病を悪化させます。

- ① タバコ中のニコチンによる血管収縮で、歯肉の流れが悪くなり歯肉の抵抗力が弱まる。
- ② 歯肉が繊維化し堅くなっていくため、出血などの歯周病の症状が出にくくなり、発見が遅れがちになる。
- ③ 血液中の白血球の機能が抑制され、歯周病原因菌と闘う力が半減します。
- ④ 歯周病の治療に必要な細胞の働きを抑えることにより、治療の効果が非喫煙者に比べ著しく低下します。



糖尿病

以前、歯周病は糖尿病の合併症の一つと考えられていたほどですが、現在ではこの考えは否定されています。しかしながら、コントロールされていない糖尿病の患者の場合には唾(だ)液の分泌量が減少し、口が渇きやすくなるため、口の中の洗浄作用が低下し、歯垢や歯石が増えて歯周病にかかりやすくなります。また歯周ポケット内への滲(しん)出液中の糖量、つまり栄養分が増え、歯垢や歯石の形成が促進されます。

性ホルモン



血液中の女性ホルモンは、歯肉溝滲出液中にも含まれます。ある種の歯周病原因菌は、女性ホルモンを栄養源としており、初潮、月経、妊娠時などは、歯周病菌が増えやすくなります。

その他

内科的疾患(こう原病、リュウマチ等)や薬剤の副作用(抗てんかん薬、免疫抑制剤等)、精神的ストレス、多量の飲酒等が歯周病を悪化させる因子と考えられています。

かかりつけの歯科医をもとう

- ★定期的に歯の健診を受けよう
- ★年に一回は歯石をとってもらおう

